

下組 「伊勢音頭」の歌詞

ここに示す歌詞は、調査の際に「得意な歌」「グループ独自の歌」「雰囲気を考えて歌う歌」などと依頼して、歌われた歌の歌詞である。

『伊勢音頭調査報告書』の中の「御坊祭の〈伊勢音頭〉」（以下、「報告書本文」）では、歌われた歌詞の「歌い出し」を記すことで表7にまとめ、歌詞の概観を行った。表7では、歌のふしの種類によって、「短い歌」「長い歌（紀小竹組にのみ「ながうた」という独自の呼び名がある）」「つなぎ歌（引き継ぎ歌、受け取り歌）」をまとめて示したが、ここでは、収録の際の歌われた順に示している。（歌のふしの種類については、「報告書本文Ⅱの表3」参照）。

なお、表記は、歌詞は黒字で、囃しことばは、音頭（下組では音頭取りを「音頭」と呼ぶことが多い）を赤字で、乗り子を青字で行っているここに示す歌詞は、調査の際に「得意な歌」「グループ独自の歌」「雰囲気を考えて歌う歌」などと依頼して、歌われた歌の歌詞である。

歌詞のみ（囃し無）

◎歌い手（昭和 57 年生）

短い歌：日高浜辺に どんと打つ波は 下の若衆の 度胸試し

短い歌：沖のかもめに 潮時間けば わたしゃ立つ鳥 波に聞け

長い歌：今度この家（いえ）に 床の間ができて かけた掛け軸 梅の木に 梅の木鶯
巣を作り 十二の卵を産み揃え 十二が一度に立つときは 金銀盃酒ついで
歌え歌えの戎（恵比須）さん 踊れ踊れの大国（大黒）さん 中で酌する福の神

◎歌い手（昭和 56 年生）

短い歌：お伊勢詣りで この子が出来て お名をつけましょ 伊勢松と

短い歌：竹に雀は 品（しな）良く止まる 止めて止めらぬ 恋の道

長い歌：火事と喧嘩は お江戸の華だ あまた火消しのある中で 野狐三次は纏持ち
背（せな）に白狐の入れ墨を 入れた入れ墨 男伊達

◎歌い手（昭和 58 年生）

短い歌：伊勢は津で持つ 津は伊勢で持つ 尾張名古屋は 城で持つ

長い歌：昔々の そのまた昔 一つ拾った桃の実を 二つに割れたる桃の種 三つ見
事な男の子 四つ世に出た桃太郎 犬猿雉をば供に連れ 六つ昔の鬼ヶ島 七
つ難無く乗り込んで 八つやすやす鬼どもを 九つ懲らしめ突き伏せて 十（と
う）でとうとう宝物 金銀珊瑚に綾錦 錦車に積み込んで 猿は前にてエンヤラ
ヤ 犬は後からヤッコラヤノヤ 雉は空にて舞を舞う 国の土産に したとい
う

長い歌：紀州紀の国 名所の国だ 北に名高き和歌浦 昔に名高き和歌山城 花は桜か

紀三井寺 散りにて流るる紀ノ川に 中に花咲く温山（ざん）荘 遙かに眺むる
生石（おいし）山 男文佐（ぶんさ）は蜜柑船 日本一なら那智の滝 朝な夕な
に陽を浴びて 紅葉映すか瀬八丁 金波（きんば）銀波（ぎんば）の波受けて 三
段壁（べき）なら白浜で かもめ遊ぶか田辺湾 高野（こうや）の峰より日高路
を 百万石なる梅の里 千鳥通うか鯉島（かつおじま） 黒潮寄せくる日の岬
煙たなびく煙樹ヶ浜 安珍恋しや道成寺 恋に身を焼く清姫を 燃えて流れて
日高川

歌詞（囃し有）

◎歌い手（昭和 57 年生）

ヨーイヤッサイ ヨーイヤッサイ

サーヨーイナーエ日高浜辺にヨ ヨイヨイ エーどんと打つ波はヨ サーヨーイセーコ
ラセ ソリャー下の若衆の ヨーイトソリャ度胸試しヨ ソラヤートコセ エエヨー
イヤナ ソリャ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヤーイートセ

サーヨーイナーエ沖のかもめにヨ ヨイヨイ エー潮時間けばヨ サーヨーイセーコ
ラセ ソリャーわたしゃ立つ鳥ヨーイトソリャ 波に聞けヨ ソラヤートコセ エエヨー
イヤナ ソリャ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヤーイートセ

サーヨーイナーエ今度この家（いえ）に ヨイヨイ エー床の間ができてヨ サーヨー
イセーコラセ かけた掛け軸梅の木に ソーレ 梅の木鶯巣を作り ソーレ 十二の卵
を産み揃えソーレ 十二が一度に立つときは ソーレ 金銀盃酒ついで ソーレ 歌え
歌えの戎（恵比須）さん ソーレ 踊れ踊れの大国（大黒）さん ソーレ 中でナーエ
酌するヨーイトソリャ 福の神ヨ ソラヤートコセ エエヨーイヤナ ソリャ ハリ
バンヨーイ コレバンヨイ ソラヤーイートセ

◎歌い手（昭和 56 年生）

サーヨーイナーエお伊勢詣りでヨ ヨイヨイ エーこの子がヨ出来てヨ サーヨーイセー
コラセ ソリャーお名をつけましょヨーイトソリャ 伊勢松とヨ ソラヤートコセ
エエヨーイヤナ ソリャ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヤーイートセ

サーヨーイナーエ竹に雀はヨ ヨイヨイ エー品（しな）良く止まるヨ サーヨーイセー
コラセ ソリャー止めて止めらぬヨーイトソリャ 恋の道ヨ ソラヤートコセ エエ
ヨーイヤナ ソリャ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヤーイートセ

サーヨーイナーエ火事と喧嘩はヨ ヨイヨイ エーお江戸の華だヨ サーヨーイセーコ
ラセ あまた火消しのある中で ソーレ 野狐三次は纏持ち ソーレ 背（せな）に白
狐の入れ墨を ソーレ 入れたナーエ入れ墨ヨーイトソリャ 男伊達ヨ ソラヤートコ
セ エエヨーイヤナ ソリャ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヤーイートセ

◎歌い手（昭和 58 年生）

サーヨーイナーエ伊勢は津で持つヨ ヨイヨイ エー津は伊勢で持つトヨ サーヨーイ
セーコラセ ソーリャ尾張名古屋はヨーイトソリャ 城で持つヨ ソラヤートコセ エ
エヨーイヤナ ソリャ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヤーイートセ

サーヨーイナーエ昔々のヨ ヨイヨイ エーそのまた昔ヨ サーヨーイセーコラセ
一つ拾った桃の実を ソーレ 二つに割れたる桃の種 ソーレ 三つ見事な男の子 ソ
ーレ 四つ世に出た桃太郎 ソーレ 犬猿雉をば供に連れ ソーレ 六つ昔の鬼ヶ島
ソーレ 七つ難無く乗り込んで ソーレ 八つやすやす鬼どもを ソーレ 九つ懲らし
め突き伏せて ソーレ 十（とう）でとうとう宝物 ソーレ 金銀珊瑚に綾錦 ソーレ
錦車に積み込んで ソーレ 猿は前にてエンヤラヤ ソーレ 犬は後からヤッコラヤノ
ヤ ソーレ 雉は空にて舞を舞う ソーレ 国のナーエ土産にヨーイトソリヤ したと
いうヨ ソラヤートコセ エエヨーイヤナ ソリヤ ハリバンヨーイ コレバンヨイ
ソラヤーイトセ

サーヨーイナーエ紀州紀の国ヨ ヨイヨイ エー名所の国だヨ サーヨーイセーコラ
セ 北に名高き和歌浦 ソーレ 昔に名高き和歌山城 ソーレ 花は桜か紀三井寺
ソーレ 散りにて流るる紀ノ川に ソーレ 中に花咲く温山（ざん）荘 ソーレ 遙か
に眺むる生石（おいし）山 ソーレ 男文佐（ぶんさ）は蜜柑船 ソーレ 日本一なら
那智の滝 ソーレ 朝な夕なに陽を浴びて ソーレ 紅葉映すか瀬八丁 ソーレ 金波
（きんば）銀波（ぎんば）の波受けて ソーレ 三段壁（べき）なら白浜で ソーレ か
もめ遊ぶか田辺湾 ソーレ 高野（こうや）の峰より日高路を ソーレ 百万石なる梅
の里 ソーレ 千鳥通うか鰹島（かつおじま） ソーレ 黒潮寄せくる日の岬 ソーレ
煙たなびく煙樹ヶ浜 ソーレ 安珍恋しや道成寺 ソーレ 恋に身を焼く清姫を ソー
レ 燃えてナーエ流れてヨーイトソリヤ 日高川ヨ ソラヤートコセ エエヨーイヤ
ナ ソリヤ ハリバンヨーイ コレバンヨイ ソラヤーイトセ

ヨーイヤッサイ

ヨーイヤッサイ

ヨーイヤッサイ